

献身の活動 地域に光注ぐ

2008年度の「愛の鳩賞」には、県内の3団体が輝いた。中高生ボランティアサークル「くれよん」(西川町)は町内の生徒たちが学校の枠を超え活動。和田地区福祉ボランティア「つくしんぼの会」(高島町)は地区内の高齢者宅を訪問、児童の登下校を見守っている。東北青少年自立援助センター「蔵王いこいの里」(上市市)は国内各地から不登校、引きこもりの青少年を受け入れてきた。「愛の鳩賞」は財団法人山新放送愛の事業団と

山形新聞、山形放送が主催し、地域福祉に尽くす個人・団体を顕彰している。1980(昭和55)年にスタートして今年で29回を迎えた。福祉関係者などで構成する選考委員会を11月27日、山形グランドホテル(山形市)で開き、県民から推薦のあった14件を審査。困難な状況で地道に活動を重ねてきたか▽成果を著実に挙げているか▽などの観点から検討した。受賞団体のプロフィールを紹介する。

愛の鳩賞

受賞団体のプロフィール



する

和田地区福祉ボランティア「つくしんぼの会」(高島町、遠藤富美子会長)は、地区公民館を拠点に、町内の特別養護老人ホームや地区内の一人暮らしの「看宅訪問」、和幼小児童の登下校の見守りなど、幅広く活動を展開している。

動も設立当初から続く恒例行事。そのほか、和幼小児童の登下校の時間帯に合わせ、会員が自主的に街頭に立って交通安全の立哨指導も実施。ことし6月には高島町社会福祉協議会の「つばい運動」に参加し、地区内の花壇二カ所に、サルビアやペゴニアなどを

「おはよう走ろう会」を始めた。町内各地に同様のサークルができて統合され、八五年に「くれよん」が組織された。八六年から続く「クリスマスパーティー」のほか、老人保健福祉施設でのボランティア、保育園のお泊まり保育補助、町成人式、町駅伝大会の運営補

じ学年のように接している。目標を共有して一人一人が持っているものを生かし、それぞれが輝く場をつくってほしい」と岩本代表。「クレヨン」の名は、一人一人が個性の色を出しながら、それを大切に、いつまでも色あせることなく活動を続けていこうという思いに由来している。

ボランティアサークル「くれよん」

(西川)



クリスマスパーティーを前にネームカードを作る「くれよん」のメンバー = 今月、西川町

西川町の中高生ボランティアサークル「くれよん」のメンバーは十三日に町体育館と町交流センターで小学生を対象に開催する「くれよんクリスマスパーティー」の準備に余念がない。本年度は高校生二十人と中学生一人が活動している。「クリスマスパーティー」は「くれよん」が取り組んでいる活動の柱の一つ。パーティーを盛り上げるゲームの準備、参加者のネームカードやプレゼント用のキーホルダーづくり…。代表の谷地高三年若本香織さん(17)は「自分も小学生

東北青少年自立援助センター「蔵王いこいの里」

(上山)



「ざおう里山自然ふれあい教室」を開催して子どもたちの感性教育にも取り組むなど、活動の幅を広げている東北青少年自立援助センター = ことし10月、上市市

引きこもる若者たちの社会性育てる

上市市の特定非営利活動法人(NPO法人)「東北青少年自立援助センター」(岩川耕治理事長)は、不登校や引きこもりなど社会的な自立につまずいた若者たちの支援活動を展開している。今年一月には任意団体からNPO法人へと移行。社会復帰の手助けだけ

でなく子どもたちの感性教育にも取り組むなど、活動の幅を広げている。一九八六(昭和六十二年)年に岩川理事長の両親の松鶴、久子夫妻が受け入れ施設「蔵王いこいの里」を開設。蔵王の自然に囲まれた場所です。二十年以上にわたって、全国各地から不登校や引きこもり、家庭内暴力といった社会になじめない青少年を受け入れてきた。これまで、小学校高学年から四十歳ぐらいまでの幅広い年齢層が利用し、その数は五百人を超える。

同じ悩みを持つ者同士が共同生活を通じて徐々に打ち解け心を開くことも、社会性を身に付けていく。およそ八割が復学や就労などで社会復帰を果たしているという。「施設に来た当初は険しい顔つきの利用者も、少しずつ柔らかな表情に変わっていくんです」本年度から小中学生を対象にした青少年健全育成活動にも取り組む。「ざおう里山自然ふれあい教室」と銘打ち、野菜作りや森林観察など、自然との触れ合いを通して子どもたちの感受性を養う。岩川理事長は「これからは子どもたちや、社会になじめない若者たちの心の成長を手助けしていきたい」と話している。

が、「じつ」と向き合い、本音を言いあえる関係をつくり上げるように心掛けている」と岩川理事長。